

グランニャさん・レベッカさんが帰国



7月13日、山田高校で外国語指導助手を務めたアイルランド出身のグランニャ・ハナさん＝写真右＝が1年間の任期を終えて帰国。また、21日にはカナダ出身で町教育委員会外国語指導助手のレベッカ・カルダーさんが2年間の任期を終え、帰国しました。お二人からメッセージが届いていますので紹介します。

Hello everyone,
This past year in Yamada has been great.
Thank you to everyone for making me feel so at home. Yamada is a beautiful town with wonderfully kind people. Thank you for giving me the chance to live and work here. Please remember that my door in Ireland will always be open to you.
Take care. Love

Gráinne

(日本語訳)

みなさん、こんにちは。

山田でのこの1年はとても素晴らしいものでした。とても気楽に過ごすことができ、皆さんに感謝しています。山田町は素晴らしく優しい人たちの美しい町です。ここに住み、働く機会をいただきありがとうございました。アイルランドでいつでも皆さんがお越しになるのをお待ちしております。

お元気で。

グランニャ

山田のみなさんへ

わたしはこの二年間山田でくらしが楽しかったです。いろいろなことをすることができました。山田は日本の中でわたしのいちばん大好きな場所です。みなさんほんとに優しく、ここが大好きです。わたしはみなさんのゆうじょうをずっと大切にわすれません。わたしはみなさんのおはなしをずっと聞いています。これからもみなさんとお話ししたいです。いまでもほんとにありがとうございます。また会いましょう！

Rebecca Calder
レベッカ カルダー

イラスト



姿だ。すごいものを見ました。
佐々木三津枝(田の浜・?歳)
「はえとり花」に心寄せて
季節のつらさに野や道端の雑草に交じって咲く「はえとり花」を見つけ、心引かれる。今年はお家の小庭にも私の好きなはえとり花が、花色良く咲き誇り、朝な夕なに心置きなく愛でた。遠い日、畑の帰り道によく線路の路肩にあどけなく咲いているはえとり花やつめ草などを「仏様」にと、野良着姿の母親と二人で平折したことを昨日のことのように思い浮かべている。

今この世のように花のあふれた時代ではなかったもので、余計にも幼心に逆もどり。心のバランスの特効薬にもなっている。亡き母との思い出をくれてありがたいたいと思う今日このごろである。
菊地サカエ(織笠・70歳)
ヘルパーの
気づかう料理こまやかで
血糖値まで我に聞きたり
菊地孝進(船越・?歳)
めかじきの
背中を追いつき突きん棒
わが子らおがれと今結放つ
糠盛祐一(田の浜・42歳)

梅雨はれ間
庭サクラ一校紅葉して
ハラリと落ちるを
ただ眺めるなり
匿名希望(織笠・?歳)
清らかで新しく明るい心で
山田町役場毎日チャイム放送
聞いて感謝の言葉を
申し上げます
平山ツネ子(石峠・60歳)
雨上がりのアジサイの花を見
目がさめる
山崎泰司(船越・59歳)
春夏秋冬とかぞへて
これから先は幾年月ぞ
豊間根マツ(石峠・?歳)

みんなのスペース



こん たいち くん
(織笠保育園・5歳)

ぼくのゆめ

ぼくはカブトムシやクワガタ
が大好きだから、大きくなっ
たら昆虫の博士になりたいな。

投書

どんなことでも結構です。
どしどしお寄せください。

終戦から六十年を迎えて

大戦の終止符を打った昭和二十年八月十五日から早や六十年を迎え、心に刻まれた事柄を忘れることはない。私は当時十六歳で、盛岡の某校一学徒だった。戦い末期の昭和十九年暮れ、岩手公園の広場に盛岡の学徒が総動員され陸軍大臣の悲痛な叫びを目の当たりにした。警護の中、背広姿で現れた人物は当時の首相陸軍大臣、東條英機。その時の一言！「私は東條です。私はこの地で生まれ、この地で育ちました。その私は今、日本の危機を背負っています。学徒諸君の奮起を望む」と...

その盛岡が間もなくB29(爆撃機)で...。その中、われわれは昭和二十年五月十三日、食糧増産のため動員で北海道足寄へと。どこも頭上は敵機だった。釜石艦砲射撃はラジオで聞いた。昭和二十年八月十五日、敗戦の知らせは町の床屋で聞いた。道庁にはソ連の旗が掲げられたとの情報もあり、その時帰れぬことを決断。ともども髪と爪を切り血書をしたため家に送る。昭和二十年十月一日、盛岡に帰ることが実現。MP(米軍憲兵)の門をくぐり帰路に着く。再びこのようなことはあるべきでない。今でも戦争が起これば他国民の気持ちに察する。

地域安全パレードに参加

六月二十四日、船越・田の浜地区の地域安全パレードが行われました。参加者全員が船越小学校児童の鼓笛隊を先頭に元気いっぱい地域の安全と青少年の健全育成を訴えました。現在、小学生による同級生刺殺事件や変質者による監禁事件などが、テレビや新聞で報道されています。子供たちを守り、健全な社会と地域生活を築いていくため、学校、地域、家庭が一体となつて地域安全活動に取り組むことが不可欠だと思います。対岸の火事ではないことを認識し、みんなで事件、事故のないよう協力していきましょう。

記念グッズをプレゼント

八月でちょうど「広報やまだ」にイラストを出し続けて五年目になります。僕のイラストを五年間見てくださった皆さんに毎

月一人の方に僕が作った手作り記念オリジナルグッズを差し上げます。希望の方は①郵便番号②住所③氏名④年齢⑤職業⑥イラストの感想(などを明記し、八十円切手を同封の上、応募ください。ただし、一人一回とさせていただきます。)

▽締め切り 八月から十二月までの各月の末日
▽応募先 〒028-1361 山田町織笠14-58-5 沼崎 信明(ペンネーム・V5)

もう一度元気に歩きたい

毎日、シルバークーとつえの世話になっています。ありがたくも九十の齢を重ねし我なれど、もう一度自分の足で歩きたい、思いあぐねる毎日でございます。今日生かされて明日のことは分からぬ、世の中を思いつつ。

ネズミをくわえたカラス

五歳の息子と保育園に行く途中、一羽のカラスが止まっていた。なんだか形が変だと思っただけ、ねずみをくわえている。しかも大きい。二人ともびっくりして後退りした。カラスは地面に落ちて食べた。ワァ、気持ち悪い。でもこれが自然の